

お世話になった先生方のご退職に寄せて

児童教育学科長 古川知子

本年3月をもちまして、8人の先生方のご退職となります。本学の教育活動に、長年にわたりご尽力いただいたことにつきまして、この場をお借りし、心より感謝を申し上げます。

ご退職に際し、先生方のこれまでのご貢献・ご活躍を紹介させていただき、お礼の言葉とさせていただきます。本学に着任された年度順で、ご紹介させていただきます。

石岡由紀先生は、平成15年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、教育学、保育学、特別支援教育です。著書“知的障害をどう伝えるか—児童文学の中の知的障害児”（文理閣）を始め、数多くの学術論文を発表しておられるとともに、学会での発表や団体や幼稚園等での研修講師を引き受けられ、発達障害児に対する具体的な支援の研究と実践に尽力してこられました。

学生たちも先生のご専門を学びたいと願っておりました。先生のゼミを希望する学生は、いつも上限を上回り、人気のゼミでした。

石岡先生は、礼節を重んじ、何事にも誠実な人柄です。温かいまなざしで、学生一人ひとりの想いをしっかり受けとめ、細やかに面倒見よく対応しておられました。私は先生の姿勢から多くを学ばせていただきました。

勝木洋子先生は、平成23年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、子どもの健康と環境です。著書“住民参加・参画の新しい子育て支援 地域でつながる。地域がつながる”（中央法規出版）を始め、数多くの学術論文を発表し、研修講師を務めるとともに、震災ボランティアや神戸マラソン等地域貢献活動にも尽力してこられました。また、保育士養成に係る審議会の委員を歴任するなどの功績が評価され、平成29年度一般社団法人全国保育士養成協議会会長表彰を受けられました。平成29年4月～平成31年3月までは神戸親和女子大学附属親和幼稚園園長も担ってくださり、様々な改革に尽力されました。

勝木先生は、いつも“弱い者の味方”です。このことは、常におれることはありませんでした。立場の弱い者や困っている者に対する思いやりのあるまなざしを忘れることはありません。先生は、私が判断に迷う時の“道しるべ”でした。

井上正人先生は、平成25年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、教育学、

算数教育です。著書“基礎・基本をおさえた算数科授業づくりのポイント”（東洋館出版社）を始め、数多くの著書・学術論文を発表するとともに、教育委員会主催の研修講師を務めてこられました。子どもの意識の流れを重視した授業づくりをめざし、算数的活動や数学的な考え方を大切にしたい指導法の研究を深めておられます。

井上先生は、実に包容力があり、学生からも慕われておられました。算数・数学を苦手とする学生が多い中、先生に相談すれば問題がわかりやすく解決できると、学生たちは喜んでおりました。

柴ひろ先生は、平成24年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、幼児の内面理解です。子どもの心の内を知ろうとすることこそ、保育者として最も大切であると提唱しつつ、“幼児の言語を獲得するための幼稚園教師の援助”を始め、多くの学術論文や教育実践記録をしたためてこられました。また、平成20年4月より芦屋市教育委員会「子ども読書の街づくり」推進委員を担い、社会活動にも携わってこられました。

先生は、神戸女学院大学を卒業後、芦屋市立の幼稚園教諭として入職され、芦屋市教育委員会指導主事ののち、幼稚園園長を歴任され、芦屋市立幼稚園園長会を担われたのち、本学に着任してくださいました。

柴先生は、豊かな人間性を備えておられ、いつも私たちのことをよく観てくださり、必要の都度、的確なアドバイスをくださいました。学生指導においても、厳しくも温かく粘り強い指導と支援をされ、多くの学生にとって、“やっぱり頑張ろう！”というきっかけを与えてくださいました。

髯本格先生は、平成24年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、理科教育、地球科学です。科学的認識を育てる自然科学（理科）教育の内容と方法や、神戸市及びその周辺の地質、防災・減災のための教育をキーワードに、研究を深めてこられました。著書“理科教育法—新しい時代の自然科学教育”（一芸社）を始めとし、数多くの著書・学術論文を発表しておられます。研究業績が評価され、プラタモリにも取り上げられました。

髯本先生の研究室や実習室には、ゼミ生以外の学生も居心地よく居らせていただいたようです。理科が苦手な学生が多い中、Lineグループを作ってまで、学生の質問に応じてくださってました。私も、心底弱っているときに、声をかけていただきました。

塩津恵理子先生は、平成25年4月より、本学に着任されました。先生は、保育者養成、保育カリキュラムの在り方等について、研究を進めてこられました。

保育所所長や行政の立場で、保育士を指導してこられた経験を活かして、保育に携わる職員の資質・専門性の向上のためのキャリアアップ研修等数多くの研修講師を務めてこられまし

た。“保育カリキュラムの基礎理論”（あいり出版）等の著書の他にも、多くの学術論文を発表しておられます。このような業績が評価され、平成30年度には、一般社団法人全国保育士養成協議会会長表彰を受けられました。

塩津先生は、穏やかなお人柄で、いつも温かいまなざしで、学生や教職員を見守ってくださっていました。困っていたら、さりげなく声をかけてくださり、“周りの人を癒す”存在でした。

澤田愛子先生は、平成27年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、“遊びや生活の中での学び”であり、幼児期に子どもが“学びに向かう力”がどのように育まれるか等、幼児教育の質を高めることについて研究を深めてこられました。平成21年4月から平成22年3月まで、神戸市立幼稚園長会会長・兵庫県国公立幼稚園長会会長を務められ、兵庫県教育委員会指導主事のご経験も踏まえ、学生の指導にあたりとともに、研修の講師も数多く担っていただきました。著書“保育カリキュラムの基礎理論”（あいり出版）を執筆されるとともに、学術論文を発表しておられます。着任された平成27年度秋学期からは、附属親和幼稚園の立ち上げに尽力され、幼稚園園歌の作詞にも携わっていただきました。翌平成28年4月～平成29年3月まで神戸親和女子大学附属親和幼稚園園長を担われました。

澤田先生は、いつも明るい笑顔で、学生や私たち教職員に元気と勇気を与えてくださいました。思いやり溢れる人柄ですが、学生への実習指導にあたっては、毅然とした態度で厳しく指導してくださり、保育者の育成に尽力されました。

塩見和広先生は、平成27年4月より、本学に着任されました。先生の研究分野は、“幼・小・中・高・大における英語教育の連携”です。“A Case Study on Co-teaching English as a Foreign Language at a Japanese Elementary School”（神戸市外国語大学修士論文）を始め、数多くの学術論文を発表しておられます。現在は、日本だけでなく海外の英語教育についても研究を深め、特に、英語ネイティブと現地教員とのTeam-teachingや日本語と英語のイマージョン教育に関する研究を進めておられます。

塩見先生は、穏やかな人柄で、学生や私たちに対して、細やかな配慮をしてこられました。学生の英語能力向上のために、何時間も補習を計画したり、ヨーロッパの学生との交流会を長く運営していただきました。

以上、紙面の都合もあり、十分な内容ではありませんが、心から感謝の意を表したいと思います。

こうして多大な貢献をいただいた先生方が、ご退職されることはとても寂しく残念な限りです。しかし、次年度から新たな学科としてスタートするために、ご退職の先生方への感謝を、次に向かうチカラに変えて、学科一同チカラを合わせていきたいと思っています。